

## 十日町市民協働の 森づくり

十日町市民スキー場跡地に  
森づくりの拠点をつりたい。

おのの星期



#### ▲国道253号梅ヶ原からの景観

一九九七年十二月「機構変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」が採択されて以来、十五年ほどの月日が経過しました。しかし、温室効果ガス排出量は減るどころか増えています。

二酸化炭素排出量削減の環境問題  
対策として国内クレジット契約に調  
印するなど市民の身近なところでも  
確実に変わり始めています。  
こうした中、市民有志が「十日町  
市民スキー場跡地に命の森づくりを  
四十一年に完成して以来、二十年余  
りの間、地域のスポーツ振興の場と  
して活躍してきました。しかし、現  
在はその役割を終え放置された跡  
地は荒れ放題となっています。

や団体・企業に声をかけて「森づくりの活動拠点をつくりたい」と平成二十二年一月、一通の趣意書を十日町市長に手渡しました。

ここから本格的な活動が動き始めました。十日町市民スキー場は、街入八戸の同上です。十日町市長へ手渡しました。

An aerial photograph of a rural area. In the upper left, there is a cluster of buildings with red roofs, likely a town or village center. To the right of the buildings, a river flows through the landscape, with several small bridges crossing it. The terrain is a mix of dark green forested areas and lighter brown agricultural fields. A winding road follows the river's path. In the lower right, there is another cluster of buildings and a small parking lot. The overall scene is a mix of natural and human-made elements.

▲空から見たスキー場跡地(2010年撮影)

整備されており、地域のケートホール場も隣接している。市民が気楽に足を運べる地区でもある事から、本活動を「命の守りづくり」と呼び、多様な総合的な目標を掲げ取組もうとしています。

「日向市民協同の森」実行委員会設立大会を開催

植樹は、十四町市の木に指定されているブナをはじめ、地域の自生種を植栽し、自然発生に近い森林の創出、また木の実のなる樹種を植栽し、鳥などの野生動物が訪れる豊かな自然の創出、現在劣化している水土保持

全など公益的機能の回復・植栽・管理・自然観察など森づくり活動を通して参加者への森の環境に対する啓蒙などの目標を掲げました。そして、有志の仲間たちが十日町市と協議を重ね、平成二十一年三月二十一日、十日町市議会協働の森づくり実行委員会(以下十日町議会協働)として、

当日は関心の高まりから二〇〇名からの市民が参加し盛大な開催となりました。公社にいがた緑の百年物語緑化推進委員会から森山常務にご出席頂き、お祝いの挨拶をしていただきました。大会では、温暖化により悪影響が進んでいる(特に信濃川の河川環境)生活環境の改善に尽

力されている、中沼漁業協同組合の長川克代表理事組合長を初代の会長に選出すると共に、副会長には十日町市産業観光部長の山岸航氏、市民の建築設計事務所社長阿部武市氏、いにがた緑の百年物語総括推進委員会地域推進員の村山徹が選出されました。

佐川氏は校長時代にPTAと一緒に校庭に木を植え、森づくりを行った経験と、父兄が汗を流し作業をする生徒の姿、完成した後の森で木に触れる生徒の生き生きとした表情は輝くばかりで美しかったと話されました。今、その森は大きく成長し生徒たちの豊かな感情を育み続けています。

実行委員会では、秋から市民と協働で汗を流し、木を植え、豊かな森づくりが継続して行えるように、平成二十四年三月末を目標にマスタートップランの作成を進めています。大勢の市民、及び賛同いただける皆様の参加を心待ちにしています。



▲スキー場跡地から溢れ出た土砂を含む水(2008年8月)



▲「十日町市民協働の森づくり実行委員会」設立大会

### ●活動場所位置図

